次世代HERO
Next Generation's Hero

崔（チェ） 芙麟（ブリン） さん
（下関西高等学校 探究科 2年生）

シドニー大学内物理学財団主催
認定！ ISS2022 オーストラリア科学奨学生

将来、研究者になって、人の力になりたい

最先端の科学を求める人材が集結

世界のスーパー高校生たちが集うISS（ハリー・メッセル国際科学学校＝The Professor Harry Messel International Science School）は1958年に創設されました。その歴史は長く、対象者や参加可能人数、名称を変えながら今なお、科学の道を歩もうとする人材に、学びの機会を与えています。

最新の科学知識に関する講義を受け、他国の高校生との交流を深めることを目的に派遣される制度で、令和4年度は7月2日から10日まで、オンラインでの開催となりました。

必要なのは、科学への興味とコミュニケーション力

日本に割り当てられたのは、わずか10人枠。在日オーストラリア大使館の協力の下、文部科学省が実施する面接や英作文の審査を通過し、見事、崔さんは全国の応募者の中からISSへの参加が認められました。

ISSでは、午前は大学教授等による講義。午後は実験キットを使ったワークショップ等が行われます。活発な発表やチーム内での意見交換があり、科学に関する専門用語（すべて英語）が飛び交います。その後、世界各国の参加者といろいろなレクリエーションがあり、コミュニケーションを楽しみます。

崔さんは「化学や生物は勉強していますが、物理は選択していません。なので工学系の講義は苦労し、実験では手順を間違えることも。振り返ってみても、とても刺激的なプログラムでした。ただ、9日間、学校の授業を受けられなかったので、授業の取り返しが大変でした」と笑顔で話します。

「講義で、顔面神経まひの事例がありました。目が開いたままで、目の乾燥が原因で視力低下などを引き起こす問題を、まばたきをサポートする医療機器を使い、改善するというものでした。他にも、実用化には至っていませんが、体の組織を3Dプリンターで作り出して臓器移植する技術や、その医学的な課題も聞くことができました。当初、私は薬学の道を考えていましたが、今は医療技術についても勉強したいと思うようになりました」

ISSに参加した崔さんに心境の変化が。「大学教授や研究者が説明する最新科学は、興味深くもあり、何より難しいものでした。でも、これをやり遂げたことで挑戦する志というか、『他のこともできるんじゃないかな？まずは挑戦してみよう！』と考えるようになれました」

未知なるものに立ち向かう崔さん。その気概は、名だたる科学者が持ち合わせているものなのかもしれません。

▲講義の様子。

▲通常授業が行われているさなか、別棟の一室でひとり、ワークショップに参加する崔さん。